

令和7年3月12日

目黒区教育委員会教育長 宛て

目黒区立碑小学校

校長 大塚 晋一

令和6年度 目黒区立碑小学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施内容

- (1) 第1回実施日時 令和6年5月25日(土) 午後1時30分～午後2時30分
(・運動会の参観 午前8時35分～12時30分)
・学校経営方針の説明
・質疑応答、意見交換・
- (2) 第2回実施日時 令和6年10月26日(土) 午後0時30分～午後1時30分
(・公開授業「道徳授業地区公開講座」 午前8時40分～午後0時10分)
・本校の教育活動について
・質疑応答・意見交換
- (3) 第3回実施日時 令和7年2月15日(土) 午前11時20分～午後0時30分
(・公開授業「碑フェスタ」 午前9時00分～午前11時20分)
・四者による学校評価アンケートの結果について
・令和6・7年度の教育活動についての意見交換・質疑応答

2 参加者

学校評議員 松本 保枝 様 鈴木 大二 様 畠山 桂子 様
熊木 智香子 様 堀内 一成 様
PTA会長 中島 健友 様

3 評価の結果等

※四者…児童・生徒、保護者、地域の方、教職員のこと。

評価項目	◎(成果)、●(課題)、 ◎(成果と課題の両者を含む)	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見
I 学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて、家庭・地域との連携、地域人材の活用などについて	◎保護者・地域ともに肯定的評価が95%以上であり、学校教育全体への評価は概ね良好である。様々な行事において、参観可能者の範囲を広げたことや学校ホームページで学校生活の様子をこまめに発信していたことが要因と捉えている。 ●児童の肯定的評価の	・児童の肯定的評価がより向上することを目指し、学校を「たのしい」と感じることができるよう、授業内容の充実、安定した友達関係の構築、行事の工夫等を行う。	・学校全体としてよい状態である。 ・児童の肯定的評価が前年度に比較して下がっているのは、児童の自覚の高まりが要因ではないか。 ・学校公開の児童の姿から、自ら考え、追究求する姿勢が育っていることを感じる。

	割合が若干下がっている。		
Ⅱ 教育目標について ・教育目標、時程、教育内容全体について	◎昨年度と比較して、保護者の肯定的評価が11%以上上昇している。今年度から重点目標を児童の実態に合わせて変更したこと、またそのことを年度当初の保護者会や学校だより等で発信したことが理解と支持を得られたと考える。	・目標を一層具現化し、各分掌でできることを考え、実行していく。 ・引き続き、本校の教育活動を保護者・地域に理解していただくために、学校だより・学年だより等で学校生活の様子を発信していく。	・「やさしい子」に育っている。特別支援学級が校内にあることもよい影響となっているのではないか。 ・今の時代は多様な人と共存していくということが必要。このタイミングで重点目標を「やさしい子」に変えたのは、時代とマッチしている。そのことから保護者の支持を得られたと思われる。
Ⅲ 心の教育について ・道徳科の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力の向上に向けた取組について	◎保護者の肯定的評価が昨年度と比較して10%近く上昇している。今年度より本校が「目黒区人権教育推進校」となり、人権意識を育てることをとおして、心の教育に焦点を当てて教育活動に取り組んでいることが評価されたと考えられる。今後も、保護者と連携して心の教育を推進していく。	・「目黒区人権教育推進校」として、引き続き、学習の場面に限らず学校生活全体における心の教育に努める。 ・本校の研究主題「自分も相手も大切にし、自分から行動する力を育てる人権教育」を、研究授業や研修をとおして推進する。	・「人権教育」に取り組むのはよい。子どもが落ち着いていることが成果として現れている。 ・学区の中学生もよい子が多い。一方で子どもたちは表には現れない面もある。丁寧に見ていきたい。 ・今の時代、不登校や不適応児童の対応としても、カウンセラーは常駐が望ましい。
Ⅳ 学習指導等について ・学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、少人数指導、〇〇タイム、主体的に学習に取り組む態度等の取組について ・職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、	◎保護者の評価は昨年度と比較して上昇している。学校公開等で学習の様子を見ていただいた結果が評価に現れているようである。 ●高学年児童の評価が下がっている。学習	・低学年では、「40分授業午前5時間制」の開始に伴い、学習内容の理解・定着のための時間を新たに設ける。 ・高学年では、習熟度別指導を行ったり、支援員による個への支援を行ったりするなど、	・高学年で学習に困難を感じている児童について、教員からの個別の声かけ、特別支援教育支援員の配置、算数の習熟度部グループ学習を継続して欲しい。 ・碑フェスタでの6年

キャリア教育等の充実について	内容が難しくなり、理解に困難を感じている児童がいる。	理解に困難を感じている児童の支援を行う。	生の発表は、個の課題の着眼点が個性的だった。 ・ 碑フェスタでの6年生の発表は、なりたい憧れの職業を挙げるのではなく、自分の目指すものや取り組みたい活動は何なのかを掘り下げて、具体的に進路を考えているのがすばらしい。 ・ 友達の発表もよく聴き、互いに認め合っている。
V 体育・健康教育について ・ 体力向上、健康の促進に向けた取組について	◎保護者の評価において13.4%の上昇が見られる。「縄跳びカード」や運動委員会が実施している「碑トライ」に、休み時間になると多くの児童が取り組み、その様子を学校ホームページで発信していることが、要因の一つと考える。また、養護教諭が「保健だより」に健康や体力向上に関する記事を掲載し、健康に関する意識の向上を促したことも肯定的な評価に繋がっていると思われる。	・ 運動委員会の取り組みを引き続き行い、次年度も体力向上のための活動を工夫する。 ・ 高学年児童については、休み時間や放課後に外遊びをしている児童と、室内で過ごしている児童が固定化している。運動委員会の取り組み等をきっかけとして積極的に体を動かす機会を設けるとともに、「ここからだ月間」に自分の健康を見つめさせるなど、児童自身で自分の課題を見つけ自ら進んで実行させていく。	・ マイタイムは校庭で多くの児童が遊んでいる姿が見られる。 ・ 運動委員会の「碑トライ」の活動は、子どもたちからの運動への誘いという意味でもよい。 ・ 現代は「スポーツ」と「体育」が離れているように感じる。学校体育の立ち位置が見えにくくなっている。 ・ 昔と比べて遊びが変化している。また、コロナ禍に住区のイベントで子どもたちの体力が落ちていることを感じた。学校でのマイタイム（休み時間）の使い方を考え直してもよいかもしれない。
VI 特別活動について	◎保護者・児童・地域・	・ 来年度も本校の特色	・ 運動会などの行事が

・学校行事の充実、異学年交流活動、クラブ・部活動の充実などについて	教職員全ての対象において、肯定的評価が90%前後と、良好な評価を得ている。運動会や展覧会・学校公開の際に保護者から回収したアンケートにも、児童の様子や開催方法について好意的な声が多く寄せられている。 ◎昨年度の学校評価報告書で課題となっていたコロナ禍で継承が途切れていた縦割り班の活動を今年度は充実することができた。	の一つである「くすのき班（縦割り班）」や兄弟学年での交流を様々な場面で意図的に設定する。そのことで、高学年が低学年を慈しむ気持ちや、低学年が高学年に憧れ目標とするような学校全体のよい循環をつくっていく。	運営面でスムーズに進行されていた。その反面、午前開催など、以前に比べ物足りなさを感じたが、体力面や気候変動等を考慮するといったしかたない。
Ⅶ 学校生活全般について ＜生活指導＞ ・生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて	◎保護者の肯定的評価が昨年度より上昇し、85%という結果である。学校評価や学校公開のアンケートより、「学校全体が落ち着いている」という意見を多くいただいている。また、生活指導主任を中心に、問題行動については、迅速に対応し、短期的・長期的に見守っていく体制ができている。 ●一方、不登校や登校を渋りがちの児童の数が増えていることも現状として見られる。	・学校という集団の中で、自分の苦手なものに向き合うことが難しい児童が増えている。スクールカウンセラーを活用して個の思いを受け止めるとともに、保護者の理解と協力を促すことが課題である。 ・教育活動全般をとおして、自分の気持ちや考えを言葉に表現できる児童の育成に取り組んでいく。	・子どもたちと先生たちの関わりや関係性がとてもよい。 ・いじめについては、「本人が感じる＝いじめ」ということになり、現実としてなくなることは難しい。

<防災教育・安全指導> ・事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて	◎安全教育への取り組みについては、保護者・児童・教職員とも肯定的評価が95%と高い数値を示している。毎月の避難訓練にも、全児童が真剣に取り組む様子が見られている。	・情報モラルについては、指導を行っているが、学校だけでは難しいのが現状である。家庭の協力を促し、全児童の意識を高めることが課題である。	・ソーシャルネットワークの使い方など、情報モラルを子どもにしっかりと教えていかななくてはならない。
<幼・保・小・中連携> ・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について ・近隣の幼稚園・保育園との連携について	◎保護者の肯定的評価が昨年度と比較して20%近く上昇している。最も保護者に取り組みが見えにくい項目であるので、引き続き進んで情報発信して理解を促していく。 ◎第七中学校区として統合前の最後の年度であったが、小・中連携子ども育成プランに基づき、「挨拶運動」「いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議」を実践し、その成果を校内全児童に共有することができた。 ◎コロナ禍から中断していた近隣幼稚園・保育園と一年生との交流活動を行うことができた。	・来年度は校区の中学校が統合1年目となるが、引き続き教員同士の打ち合わせを密にとり、小・中連携を模索していく。また、新しい形での小・中連携の取り組みの具体的様子を、本校ホームページ等で発信していく。	・学区の区立中が現在落ち着いている。 ・新校開設に伴い、保護者の中には通学距離を心配している声が聞かれる。南中学校との連携を来年度一年かけて構築していくことが大事。 ・中学校との連携が保護者に見えやすくするための工夫が必要。 ・住区の行事のボランティアとして、小学生と中学生の連携が行われている。

Ⅷ 情報の発信 学校の情報発信の充実について	◎保護者の肯定的評価が昨年度と比較して14%上昇している。日常の教育活動をタイムリーに学校ホームページの学校日記で発信していること、保護者宛ての通知文を Home & School で速やかで確実に発信していることが要因と思われる。	学校と家庭を繋ぐアプリ「Home & School」を使用している、学校からの通知文や情報の発信、欠席連絡、連絡帳機能が定着し、学校と保護者の意思疎通が速やかに、そして確実に行うことができている。引き続き有効活用していきたい。	- 学校ホームページの学校日記が毎日更新されているので、学校の教育活動が地域に開かれていると感じる。 - 碑小 PTA ホームページも作成予定であり、PTA からも学校の教育活動を応援していきたい。 - 碑小 PTA 公式ライン（現在、家庭数の約8割が登録）で、学校行事の前に保護者へお知らせを行うなど、PTA 会長から学校の様子を保護者に発信している。
Ⅸ 教員の人材育成について 日常の職務をとおして専門性と協働性の育成、教育公務員の自覚について	◎教職員の肯定的評価が95%と高い数値を示している。年間3回の自己申告の授業観察・面談において、授業力と生活指導力における個々の課題を管理職から教員に伝え、継続的に観察とアドバイスを重ね、専門性を高めさせている	主幹教諭や主任教諭による OJT をより推進し、組織的な人材育成に努める。	現在、学級経営に困難を感じているクラスがない、ということは人材育成の成果だと感じる。
X 教員の働き方改革について 校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業務の効率化・最適化について	◎「チーム碑」の意識が高く、協力し、支え合いながら業務を行うことができている。全体として教員の長時間労働は年々減少してきているが、依然解消されてい	引き続き、教職員の心身の状態に気を配っていく。	教職員の「チーム碑」の雰囲気が高い。

	い。 ●昨年度と比較して教職員の肯定的な評価が5%低下している。病気休職の教員が複数出たことにより、業務の負担が係ってきたことが大きいと思われる。		
XI サービス事故の防止について ・サービス事故防止に向けた取組などについて	◎教職員の肯定的評価が95%と高い数値を示している。	・サービス事故防止研修など、教育公務員としての自覚を高める研修を引き続き行っていく。 ・肯定的評価をつけなかった教職員がどこに問題を感じているかを把握し、100%を目指し、取り組みを改善していく。	・引き続き研修を行い、研鑽を積み、事故防止に取り組んで欲しい。